

北海道浮魚ニュース

令和3(2021)年度20号

2021年11月11日

道総研 函館水産試験場

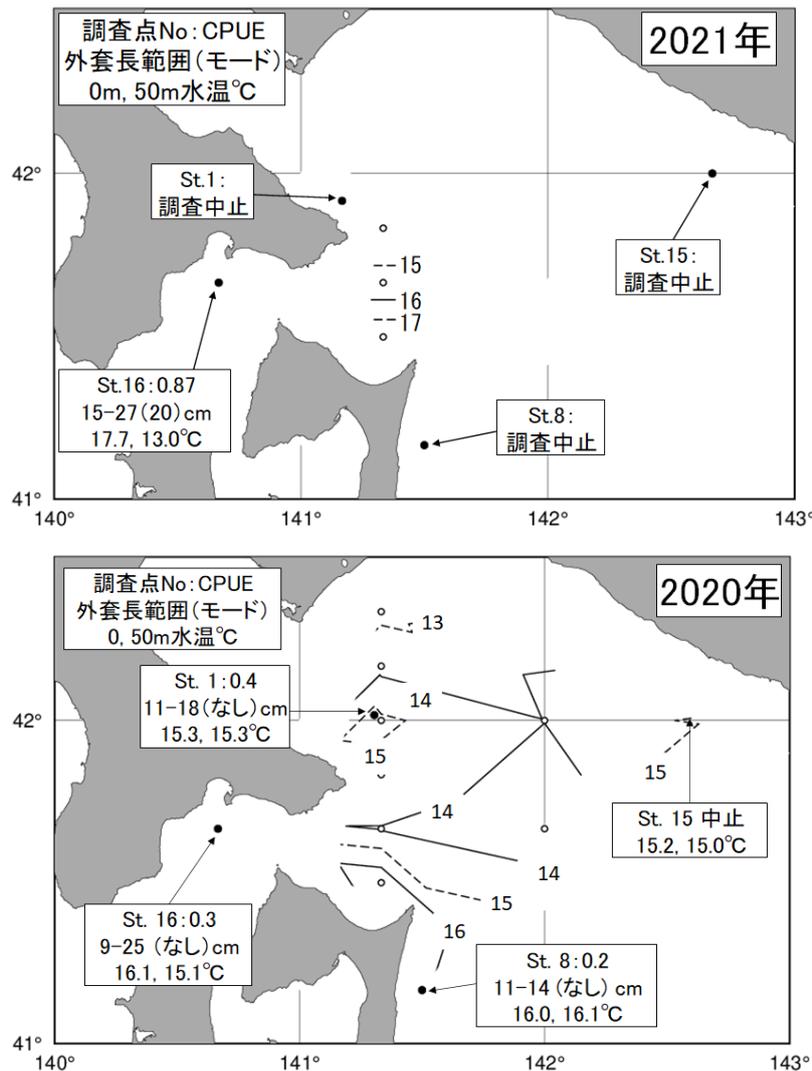
ホームページ: <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

◎道南太平洋スルメイカ調査結果

11月1～6日の期間、津軽海峡～道南太平洋で、函館水産試験場調査船金星丸(151トン、イカ釣機5台、集魚灯20灯装備)により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。なお、今回の調査は時化のため、津軽海峡周辺でしか実施できませんでした。

- ・函館沖のスルメイカの分布密度は昨年および過去5年平均を上回った。
- ・体サイズは昨年および過去5年平均より大型の個体が多かった。

1. 水温分布(図1)



2021年の函館沖調査点 St. 16 の表面水温は 17.7°C (昨年 16.1°C)、深度 50m 層の水温は 13.0°C (昨年 15.1°C) でした。

津軽海峡東側における深度 50m 層の水温は 14～17°C 台であり、昨年並み～若干高めでした。

なお、流向流速分布については、津軽海峡周辺のみを観測だったため、今回の浮魚ニュースでは割愛しました。

図1 スルメイカ漁獲調査結果と深度 50m の等温線図(上: 2021 年、下: 2020 年)。●は漁獲調査点で大きさは CPUE に比例、○は海洋観測点

2. スルメイカの分布密度 (図1、表1)

2021年の函館沖調査点 St. 16 のCPUE (2連式イカ釣機1台1時間当たりの漁獲尾数) は0.87であり、2020年の値 (0.31) や過去5年平均 (0.64) を上回る値でした。2021年の函館近海のスルメイカ水揚状況は低調に推移していますが、11月上旬は比較的好漁となっており、これを裏付ける結果となりました。

表1 11月道南太平洋スルメイカ調査におけるCPUEの経年変化
過去5年平均は2016～2020年の平均値

調査点	場所	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	過去5年平均
		11/7-11/8	11/6-11/10	11/5-11/9	11/4-11/8	11/5-7, 15-16	11/1-11/6	
St. 1	木直沖	0.07	0.22	0.61	0.20	0.40	-	0.30
St. 8	下北半島東沖	-	0.40	0.08	0.14	0.20	-	0.21
St. 15	浦河沖	-	0.04	0.00	0.14	-	-	0.06
St. 16	函館沖	-	0.28	0.12	1.83	0.31	0.87	0.64
平均CPUE		0.07	0.24	0.20	0.58	0.30	0.87	0.28

3. スルメイカの大きさ (図2)

2021年のスルメイカの外套長は15～27cm (昨年9～25cm) の範囲にありました (図2)。最も多く出現したイカの大きさ (モード) は20cmであり、昨年 (12cmと17cm) および過去5年平均 (18cm) より大きいサイズでした。また、20cm以上の大型個体の出現率も昨年および過去5年平均よりも高くなりました。

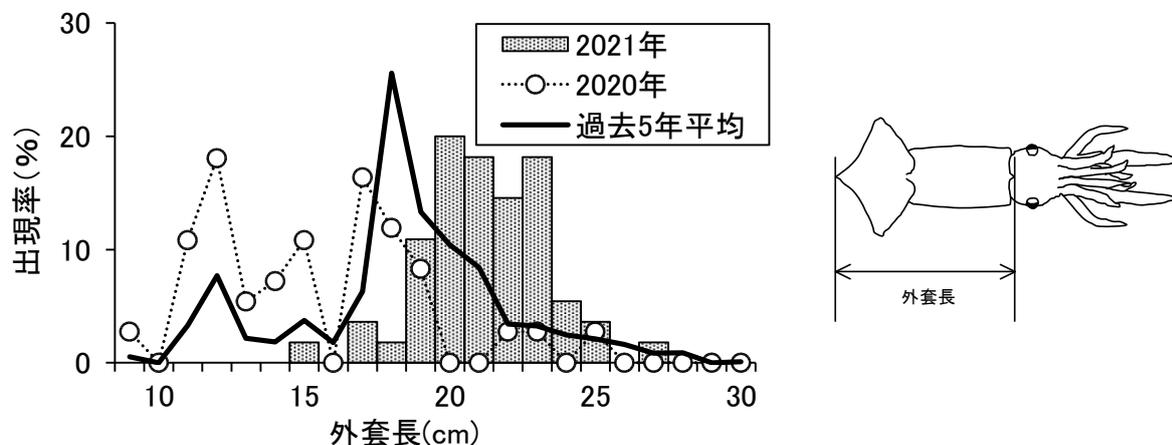


図2 調査海域全体のスルメイカの外套長組成